

平成 23 年度 CDM/JI 実現可能性調査 現地調査報告書

調査案件名	バングラデシュ・家庭用バイオガスダイジェスター普及プログラム CDM 実現可能性調査		
調査実施団体	株式会社 PEAR カーボンオフセット・イニシアティブ	調査回数	第 1 回

(※現地調査の結果を、下記項目に沿って、2～3 頁程度で報告してください。)

1. 現地調査出張者(外注先などの随伴者がいる場合、そう分かるように記載):

PEAR: 松尾 直樹, ゴジャシ ウティクル

JQA: 古屋 暁子, 高田 潤, 小林 廣司 (外注先, オンサイト審査チーム)

2. 現地調査日程(出発日、宿泊地、帰国日等が分かるようにして、簡潔に記載):

2012 年 2 月 11 日 羽田出発 ~ 2012 年 2 月 19 日 成田着

宿泊地: ダッカ

3. 日程・時間工程別調査内容(現地の訪問先・協議者なども記載):

2 月 11 日	羽田出発 (正確には 12 日になってからの深夜便)
12 日	ダッカ到着
13 日	<u>Grameen Shakti</u> と事業実施に関する事項についての協議 Dr. M S Islam, Head, Department of International Cooperation & Development Mr. Mohammad Roqibul Islam, Manager Mr. M A Gofran, Biogas Consultant
14 日	<u>IDCOL</u> と事業実施に関する事項についての協議 Mr. Nazmul Haque, Director & Head of Investment Mr. MD Wahidur Rahman, Asst. Director Mr. MD Miran Hossain, Senior Investment Officer
15-18 日	現地でのバリデーション <u>Rural Services Foundation</u> (Day 1) Mr. Md. Ruhul Quddus, Executive Director <u>Bangladesh Centre for Advanced Studies (BCAS)</u> (Day 1) Dr. Atiq Rahman, Executive Director Dr. Moinul L Sharif, Senior Fellow <u>Department of Environment (DoE)</u> (Day 2) Mr. Md. Shahjahan, Director <u>Bangladesh Biogas Development Foundation (BBDF)</u> (Day 2) Mr. Mohammad Monier Ullah, General Secretary <u>Rahman Renewable Energy Co.</u> (Day 2) Mr. Redwanoor Rahman, Managing Director <u>Sripur Upozila, Gazipur District</u> (Day 2) Mr. Md Ikbal Hossain Shabuz, Chairman, Mr. Md Fakhrul Hassan, Upozila Agriculture officer, Dept of Agriculture Extension Dr. Shukla Halder, Additional Veterinary Surgeon, Dept of Livestock Services <u>Users and mason</u> (Day 3) Mr. Mahamudul Hasan Alal, Poultry Farm Owner Mr. MD. Ainal Hoque, Poultry Farm Owner Mr. Abdur Razzak, Poultry Farm Owner

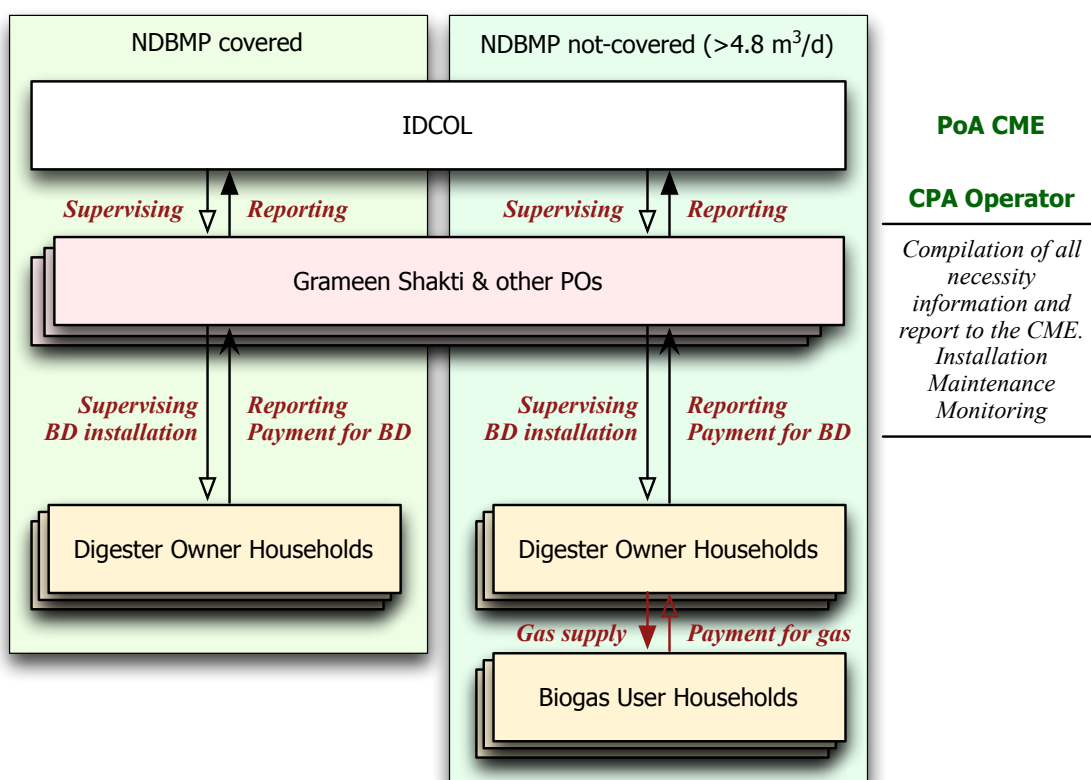
	Mr. Firoz Mia, Mr. Kamal Uddin, Mr. Ronju,	Poultry Farm Owner Farmer Mason
18 日	ダッカ出発	
19 日	成田到着	

4. 調査結果概要

今回の調査の主目的は、「IDCOL とのプロジェクトスキームの打ち合わせ/確認」、「バリデーシンのオンサイト審査の実施」である。

IDCOL とのプロジェクトスキームの打ち合わせ/確認

途中からプロジェクトスキームに、とくに CME というコア部分で入ってきた IDCOL に対し、プロジェクトスキームに関し打ち合わせを行い、下図の形で行うことが確認された：



NDBMP は、現状の IDCOL の家庭用バイオガス普及プログラムである。

また、モニタリング体制やデータベース構築に関しても、既存のシステムをおよそどのように改変するか、という点で合意がとれた(主としてユーザー家庭情報を追加する)。

バリデーシンのオンサイト審査の実施

現地審査として、プロジェクト関係者、関係諸機関、いくつかの農家を訪問した。

基本的には、現状の (IDCOL と Grameen Shakti の) 体制整備状況が非常に進んでいるため、CDM 固有の部分アドオンしたとしても、大きな問題は生じないだろうという感触である。

その他、関係諸機関や農家調査において、とくに問題となった点はなかったと思われる。



5. 特筆すべき問題点(プロジェクトの実現可能性に係る大きな問題が発見された、調査業務の進行を妨げる大きな問題が生じた等)

とくに問題はない。CDM のルール上の点(とくに木質バイオマスの一家庭あたりの量のデフォルト値と、プロジェクト実施後の木質系バイオマス消費量のモニタリング回避可能性)は、もうすこし時間を要する。

6. その他の課題(「特筆すべき問題点」よりも軽微であるが事業化に向けて翌月以降の調査で解決すべき課題、調査方針の変更など)

バリデーションとして、事前に JQA から受け取っていたチェックリストは、CAR は存在しなかった。今回の調査結果を踏まえて、PoA-DD, CPA-DD を修正することとなる。